

製品名: IL-7R ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12567**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	人間、ネズミ、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	52 60kDa

抗原情報

遺伝子名	IL7R
別名	IL7R; Interleukin-7 receptor subunit alpha; IL-7 receptor subunit alpha; IL-7R subunit alpha; IL-7R-alpha; IL-7RA; CDw127; CD antigen CD127
遺伝子 ID	3575.0
SwissProt ID	P16871
免疫原	抗血清はヒト IL-7R/CD127 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 410-459

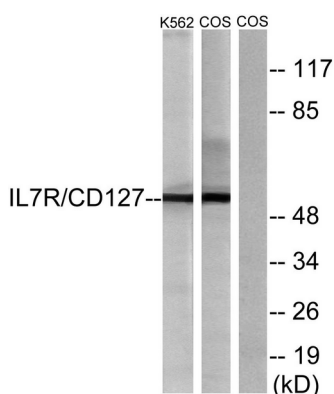
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、インターロイキン7 (IL7) の受容体です。この受容体の機能には、インターロイキン2受容体 γ 鎖 (IL2RG) が必要です。IL2RGは、インターロイキン2、4、7、9、15など、様々なサイトカインの受容体に共通する γ 鎖です。このタンパク質は、リンパ球の発達におけるV(D)J組換えにおいて重要な役割を果たすことが示されています。この遺伝子の欠陥は、重症複合免疫不全症 (SCID) に関連する可能性があります。選択的スプライス転写バリエーションが見つっています。[RefSeq提供、2015年12月]、疾患: IL7Rの膜貫通ドメインにおける遺伝的変異は、多発性硬化症 (MS) の感受性と関連しています [MIM:126200]。多発性硬化症を発症した子孫では、Thr-244をコードする主要な「C」対立遺伝子の過剰伝達が発見されます。「C」アレル (Thr-244) または「T」アレル (Ile-244) のいずれかを含むミニ遺伝子からの転写産物の *in vitro* 解析により、「C」アレルはエクソン6のスキッピングを約2倍増加させ、IL7Rの可溶性形態の産生増加につながることが示されています。したがって、多発性硬化症に関連するIL7Rの「C」リスクアレルは、おそらくIL7Rの膜結合型発現を低下させると考えられます。このリスクアレルは一般集団に多く見られるため、MSの発症と進行には何らかの追加の誘因が必要であると考えられます。、疾患: IL7Rの欠陥は、常染色体劣性重症複合免疫不全症 T細胞陰性/B細胞陽性/NK細胞陽性 (T(-)/B(+)/NK(+)) SCID [MIM:608971]の原因です。SCIDは、遺伝学的および臨床的に、体液性免疫と細胞性免疫の両方の障害、白血球減少症、および抗体レベルの低下または欠如を特徴とする稀な先天性疾患群を指します。SCID患者は、乳児期にカンジダ・アルビカンズ、ニューモシスチス・カリニ、サイトメガロウイルスなど、日和見感染症を繰り返す持続性感染症を呈します。すべてのタイプのSCIDに共通する特徴は、T細胞分化の欠陥によりT細胞を介した細胞性免疫が欠如していることです。、ドメイン: ボックス1モチーフは、JAKとの相互作用および/または活性化に必要です。、ドメイン: WSXWSモチーフは、適切なタンパク質フォールディング、ひいては効率的な細胞内輸送と細胞表面受容体への結合に必要と考えられます。、機能: インターロイキン-7の受容体。胸腺間質性リンパ球形成因子 (TSLP) の受容体としても作用する。、オンライン情報: IL7R変異データベース、配列注意: 汚染配列。ポリA配列の可能性あり。、類似性: I型サイトカイン受容体ファミリーに属する。タイプ4サブファミリー。、類似性: フィブロネクチンIII型ドメインを1つ含む。、サブユニット: IL7受容体はIL7RとIL2RGのヘテロ二量体である。TSLP受容体はCRLF2とIL7Rのヘテロ二量体である。、

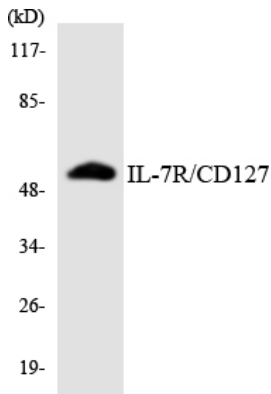
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用; Jak_STAT; 造血細胞系統; 原発性免疫不全;

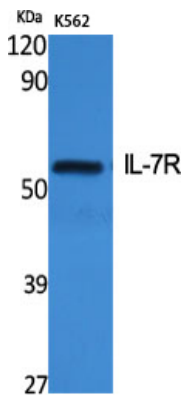
画像データ



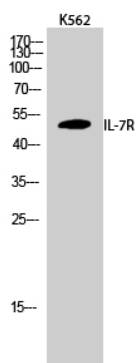
IL-7R/CD127抗体を用いた、インスリン 0.01U/ml を 15 分間処理した K562 細胞および COS 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロックされている。



IL-7R/CD127 抗体を使用した Jurkat 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



IL-7R ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



IL-7R ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット解析